

Ⅲ 人的環境

（１）多様な関係性の中で学びを促す

本市の学力充実プランは、「授業研究」「学習環境」を充実させたり整備したりするだけではなく、児童生徒が毎日生活をともにする仲間や教師との関係性が個々の学びを支えていると考えます。このことは、これまで「よりよい授業づくりはよりよい学級づくりと両輪で」と語られてきていることと繋がります。とりわけ、人間関係づくりをする場が確実に減少している今の児童生徒にとって、学校での多様な他者との関わり合いは、貴重な生きた経験の場、学びの場となります。

児童生徒は、授業や学校生活での関わり合いの中で、「あの子はそう考えるんだ。」「私はこう思う。」と思考を広げたり、相手の立場を理解して思いやったり、周りから認められたり、励まされたりして自身の存在を確認したりします。こうした関わり合いをとおして、児童生徒は「仲間と学びたい」と意欲的に学習に取り組んでいくと考えます。

（２）自尊感情の高まり～安心して学ぶことができる関係性の構築に向けて～

⑦ 思いやりの心・責任感を育む集団活動

ア 縦割り活動の活性化

大宮小では、異学年集団による縦割り活動は、『みやぼんズ』と呼ばれています。縦割り班の活動内容は「縦割り清掃」、「ゲーム集会」、「運動会の応援」、「綱引き大会」等です。

双峰小での縦割り班は『やまびこグループ』と呼ばれており、大宮小の形と同様に実施されています。活動内容は、高学年が絵本の読み聞かせをする「やまびこ読書」、グループごとに遊びを決める「やまびこ遊び」、「やまびこ清掃」等です。

豊明小での縦割り班の活動は、『なかよし活動』と呼ばれ、チームごとに動物の名前が決められています。活動内容は、高学年がリードして遊びを決める「なかよし遊び」、「なかよし清掃」等です。

栄中での縦割り班の活動は、体育大会で行われました。全生徒を６ブロックに編制し、ブロック対抗で競い合いました。活動内容は「応援団の練習」「応援旗の作成」「綱引き」です。

イ 自己肯定感を高める学級活動・道徳授業実践

児童生徒が学級や学校の仲間から「認められている」「受け入れられている」と実感できるような場を、学級活動や道徳の授業の中に取り入れています。

学級活動としては、学級全員で１枚の絵をつくりあげるグループワークトレーニング「友だちのよいところをみつけよう」（大宮小）、卵の絵を半分にしていびたり合った人と質問し合うグループエンカウンター「運命の人をさがせ」（双峰小）等に取り組み、学級内での人間関係が良好となるようにしました。

道徳の時間としては、「自分らしさを発揮して～和也らしい花」の実践で、児童が自分のよさに気づき、自分自身を正しく知ることは、自分らしさを発揮し、充実した生き方について考えさせました。授業の最後に、友だちから児童のよさを書いた「言葉のプレゼントカード」を交換させたところ、「自分のよさをこれからも大切にしたい」「自分のよいところを書いてもらえてうれしい」という児童の声がありました。

（３）成果と課題

多様な人間関係を構築する取り組みを、各学校で「縦割り班」「学級活動」「道徳の時間」等で実施してきました。その成果を、市で年間６・１１月の２回、小学校３～６年、中学校全学年で実施したＱ－Ｕの結果を以下のように分析しました。

豊明小、双峰小、大宮小、３小学校の「学級生活満足群」は、６月が４８％、１１月が５０％と増加しました。全国平均は１１月が４０％であるため、全国より１０％上回りました。逆に、「学校生活不満足群」が６月は２１％、１１月は１６％と減少しています。（図６）

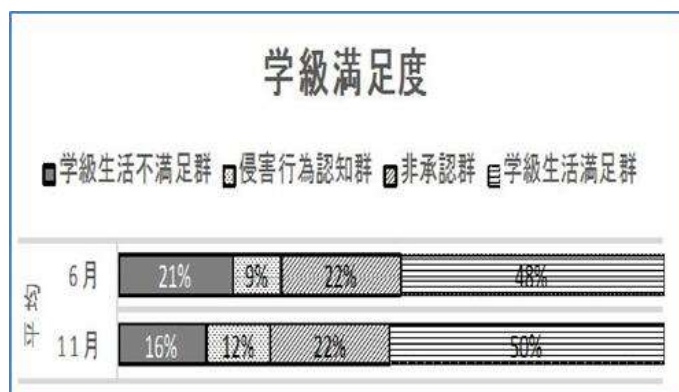


図６ ３小学校のＱ－Ｕ結果

つまり、縦割り活動、学級活動、道徳の時間等の取組が、児童の学級生活の満足度を高めることに影響を与えていると考えられます。

課題としては、図６の「侵害行為認知群」が６月は９％、１１月は１２％と増加している点です。２学期に、気持ちのすれ違い等が原因となって、学級内の問題が顕在化したためであると考えます。

この点については、ある高学年の自己中心的な児童が、縦割り班での活動を通して低学年と関わり合う中で、年上としての自覚が生まれたという事例があります。この児童のＱ－Ｕの結果を見ると、「学級満足度」の承認得点が１５から１７に上がり、非侵害得点が１３から１２に下がりました。また、学校生活意欲も、友だち関係が７から１１へと変化しました。以上のことから、人的環境を豊かにすることで、児童生徒が自己肯定感を高め、自らのよさや可能性を発揮できるようになるということがいえます。そして、互いのよさを認め合い、信頼関係で結ばれた集団の一員として活躍できるようになるのです。

こうした人的環境を充実させる取組を進めていくことで、児童生徒が学級や学校で生活することへの安心感や信頼感をしっかりともち、意欲的に授業に参加し、学習に落ち着いて取り組むことができるようになると考えます。